

第14回名古屋大学ホームカミングデイ メインテーマ「社会の中の大学」

第14回名古屋大学ホームカミングデイが、10月20日（土）、東山キャンパス及び大幸キャンパスにおいて開催されました。テクノ・フェア名大2018、名大秋祭（秋革祭）と同時開催し、当日は、天候にも恵まれ、卒業生や在学生のご家族、地域住民の方々を中心に約4,500名の方にご来場いただきました。

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められており、同窓生が母校に集うだけでなく、在学生のご家族や教職員OB、地域住民の方々も、本学との絆を深めていただくための交流の場として、平成17年から、毎年10月の第3土曜日に開催しています。



当日の運営は、主に事務局の職員が、来場者への対応、駐車整理などの業務にあたり、各部局においても、職員と学生が行事を運営し、同窓生や在学生の保護者、地域住民の皆様をお迎えしました。

また、あかりんご隊の学生は、「あかりんご隊科学実験」の運営をし、サッカー部に所属する学生は、「親子サッカー教室」の運営をサポートしました。

当日は、来場者記念品として、ホームカミングデイリーフレット等の入ったお土産バッグを配付しました。



■特別企画：人生100年時代に向けた社会と大学の協働 講演会「いつか死ぬ、それまで生きる」

午前中、豊田講堂シンポジオンホールにおいて、詩人・伊藤比呂美氏が講演を行いました。会場には200名以上が来場し、満席となりました。

講演後には、コメンテーターとして、名古屋大学大学院人文学研究科金山弥平教授、名古屋大学男女共同参画センター榎原千鶴教授、国際日本文化研究センター坪井秀人教授が加わり、座談会や人生相談が行われました。

本講演会では、聴覚障害をお持ちの方々向けに要約筆記*を実施しました。

*記者が講師の話を要約し、文字をスクリーンに投影





また、特別企画関連展示として、豊田講堂ホワイエでは、文学部・人文学研究科紹介展示を行い、多くの方にご覧いただきました。

その他、ホワイエには、未来材料・システム研究所や宇宙地球環境研究所の研究内容紹介展示、モニターによる大学文書資料室のスライドショー、スタンプラリー受付、HeForShe イベントブース、豊田講堂ホールで収録が行われたNHK Uta-Tube 放送回の上映ブースが設置され、にぎわいをみせました。

■名古屋大学の集い

午後から、豊田講堂ホールにおいて、卒業後 10 周年、20 周年、30 周年、40 周年、50 周年を迎えられた周年同窓生の皆様、抽選で当選された皆様をお迎えして、「名古屋大学の集い」を開催しました。本学教育学部卒業生の磯谷 祐介氏(元ラジオナビゲーター、ヴォイスティーチャー)が司会進行を務めました。はじめに、松尾総長、豊田章一郎全学同窓会会長から挨拶があり、次いで、和田全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の活動報告が行われました。続く「名古屋大学国際交流貢献顕彰授与式」では、ベトナム司法省 副大臣 ダン・ホアン・オワイン氏、名古屋大学全学同窓会マレーシア支部副部長・マラ工科大学准教授 ハナフィア ビン ユソーフ氏、名古屋大学全学同窓会ミャンマー支部支部長 ナン ララウィン氏の 3 名に、国際的な取り組みに対する功績を称え、表彰状と記念品が授与されました。



休憩を挟み、中部フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。指揮者には吉田行地氏、ソリストにはヴァイオリニストの正戸里佳氏をお迎えしました。吉田行地氏は、これまでルーマニアや全国各地のオーケストラに客演され、またクラシックにとどまらず、劇団四季のミュージカル「美女と野獣」ロングラン公演の指揮を務めるなど、多彩な音楽活動をされている指揮者です。また、正戸里佳氏は、17 歳でパガニーニ国際ヴァイオリンコンクール

第 3 位を受賞されて国際的な話題となり、長くパリを拠点にしながら、国際的に活動を展開されております。今回は、アンコールを含め、チャイコフスキーの楽曲全 8 曲が披露されました。大序曲「1812年」作品 49 では、名古屋大学交響楽団金管セクションとの共演もあり、大変盛り上がりました。

また、午前中は、中部フィルハーモニー交響楽団による公開リハーサルを実施しました。会場の来場者は普段見ることのできない練習風景を楽しみました。

■スタンプラリー

主要施設 6カ所（赤崎記念研究館、減災館、ナショナル・イノベーション・コンプレックス（NIC）、野依記念物質科学研究館（ケミストリーギャラリー）、中央図書館、博物館・古川記念館）を巡るスタンプラリーを実施しました。主要施設 6カ所のスタンプ押印を完了された方のうち、抽選で 200 名に「名大オリジナルマグカップ」を進呈するこのイベントには、多数の来場者が参加しました。参加者からは「スタンプラリーを通して大学の見どころを見学できた」などと好評でした。



■施設公開「ナショナル・イノベーション・コンプレックス（NIC）」

可能な限り樹脂を使ったコンセプトカー「SHINAYAKA Polymer™ が作る未来のクルマ展示」や、「ゆっくり自動運転®」自動走行試乗会も行われ、大変賑わいました。



■体験企画「あかりんご隊科学実験『電気のはみつ』」、「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」

野依記念学術交流館 1階カフェスペースでは、「あかりんご隊科学実験『電気のはみつ』」を行いました。

保護者の方に見守られながら、本学の理系女子学生で構成される「あかりんご隊」が実験方法を説明し、子どもたち自身が実験を通して「電気」を楽しく学びました。



陸上競技場では、「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」を実施しました。名古屋グランパススクールコーチの指導の下、サッカーの基本プレイを学び、ミニゲーム等を行いました。子どもたちだけでなく、保護者の方の笑い声もたくさん響き、親子のふれあいを楽しむ様子が見られました。

■見学ツアー「超高压電子顕微鏡施設」

毎年人気のこの企画では、参加者は、地面からの高さが10mにもなる「反応科学超高压走査透過電子顕微鏡 JEM-1000K RS」を間近に見ながら、熱心に説明を聞いていました。



■中央図書館、博物館、大学文書資料室企画

中央図書館では、オープンライブラリーのほか、秋季特別展「古文書にみる地震災害」を開催しました。

本のリユース市は、学術書等手に入りにくい図書が安価に入手できることもあり、今年も多くの方が本を購入されました。

博物館では、特別展「カニコレ'18～カニのハサミは使いよう～」を開催しました。

豊田講堂ホワイエでの「大学文書資料室 スライドショー 写真で見るあの頃の名大」では、モニターの前で立ち止まり、当時の写真を懐かしむ姿が多数見られました。

また、「東山キャンパス名大史ツアー」も開催され、参加者は、本学の歴史に関わる説明を聞きながらキャンパス内を興味深そうに回っていました。



■販売コーナー



豊田講堂南側ピロティの販売コーナーでは、農産物の販売、大学生協による名大グッズ等の販売が行われました。

農産物の販売では、フィールド科学教育センター 東郷フィールドの大地で育てられた新鮮な野菜やお米が販売され、人気を集めていました。

大学生協による名大グッズ等の販売では、名大饅頭や名大オリジナルマグカップなど豊富な商品が並び、多くの人で賑わいを見せていました。

■その他各学部・研究科主催行事等

各学部・研究科においては、市民公開講座、同窓生向け行事、保護者向け行事等が実施されました。

多彩な分野の講演タイトルが出揃った市民公開講座等は、現役の名古屋大学教員だけでなく、名誉教授や外部講師等を講師にお迎えし、同窓生も一般の方も楽しめる講演内容の工夫が凝らされていました。

また、保護者向け行事では、各学部・研究科ごとに、教育・研究内容の紹介や進路・就職状況について説明があり、保護者からの質疑応答や個別相談も行われました。保護者向け行事に参加いただいた方には、日頃、在学生在が食べている大学生協の食事も体験していただきました。参加者からは、「普段子供からの情報が少ない中、学生生活について情報を得られる貴重な機会であった、また教員と直接話ができてよかった」などのお声をいただきました。

参加された多数の方に、楽しい一日を過ごしていただき、ホームカミングデイを通じて、本学との繋がりをより一層深めていただくことができました。来年も10月の第3土曜日（2019年10月19日（土））に開催を予定しておりますので、是非、お越しください。